

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の中で暮らすことの意味を理念にいれ、理念を目の付くところに掲げ、意識しやすいようにしている。月一回の全体会議で実践について話し合いを行っている。	理念については玄関に掲示しミーティング等でも話し合い、利用者と家族の想いを大切に日々の支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス禍であるが職員は理念の持つ意味を良く理解し利用者によりやさしく寄り添い利用者一人ひとりのやりたいことを把握し、ストレスが溜まらないよう工夫を重ね支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は感染症の影響で交流が中止になってしまったが、通年地区の育成会との交流が図れている。(そうめん流し、焼き芋会、三九郎)	開設以来、地域に密着した施設を目指し活動を続けてきたが、昨年春以降、新型コロナウイルスの影響を受け地区育成会の行事や様々なボランティアの来訪、中学生、短大生の職場体験等、全ての交流活動が中止に追い込まれ残念な経過となっている。新型コロナ収束後にはまた積極的に活動を再開する予定である。そのような中で面会も自粛中であるが、家族に季節の花を植えていただいたり、庭の草取りをボランティアとしてやっていただき感謝をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習、施設見学者の受け入れを行ない、説明、質疑応答を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回会議を開催し、ホームの実情を説明し、出された意見を職員間で共有し多くを学ばせてもらっている。また、ホームの行事に参加することで、利用者の生活の様子を見ていただく。	例年であれば、家族代表、区長、民生委員、市介護福祉課職員、消防署員、第三者委員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。利用状況、活動報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。また、年数回行われるホームの行事にも参加を頂き、利用者で交流する時間を持っていただいている。更に、1回は防災訓練も兼ね会議を開催している。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、書面での報告と7月、11月の2回の開催に留まり、新型コロナウイルスの早期の収束が待たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議意義に参加いただき、ホームの取組等報告できている。市町村の立場から意見をいただき、職員間で共有している。	市介護福祉課には様々な事柄について電話にて相談をし、助言を頂き運営に役立てている。また、ホームの行事にも参加をいただき、利用者で交流する機会を持っていただいている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪の上行い、立ち会われる家族もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関の施錠は行っている。月一回全職員参加の勉強会を行い、身体拘束について理解し、しないケアを実践している。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中は開錠されている。外出傾向の強い利用者があるが職員がホームの周りを一緒に散歩し対応している。転倒危惧のある利用者が三分の一ほどおり、家族と相談の上安全確保のため足元センサーを使用している。月一回の全体会議の中で身体拘束についての勉強会を行い、拘束に対する意識を高め拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、知りえた情報を全体会議にて報告説明し、資料の貼り出しにて周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持ち、全体会議で報告することで共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で、十分な時間をとり説明し、疑問に答えている。契約後も意見や質問を受ける態勢をつくり、不安の無いよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会主体の会議を一年に一回計画して頂き、第三者委員、区長、市の担当者のご参加で、直接家族が意見を出せる機会を設けている。日頃は玄関に意見箱を設置すると共に、職員に意見を話しやすい関係を作り、実際にいただいたいけんは反映できる体制が出来ている。	ほとんどの利用者は意思表示の出来る状況であり問い掛けの中で言葉や表情より思いを受け止めるように努めている。今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年、年1回行われている家族会も中止をせざるを得なくなっている。家族の面会も自粛状態が続いており、月1回ほど玄関先での短時間面会が続いており早期の収束が望まれる。このような状況下、来訪時には利用者の状況を細かくお話し、合わせて常日頃電話にてきめ細かな連携を取るようになっている。また、3ヶ月に1回発行されるお便り「なでしこの家」でホームの活動の様子をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議では、事前に各職員は担当利用者の生活について、話し合いたい項目を記録し・活発な意見交換を行っている。	月1回全職員出席の上全体ミーティングを行い、法人よりの連絡、職員の安全衛生委員会、身体拘束の勉強会、利用者一人ひとりのカンファレンス、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。職員は自らの年間目標を作成し、半年に1回見直しを行い、それに対し管理者が個人面談を行い、意思疎通やスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望日と精神的、体力的なことも考慮し勤務表を作っている。職員個々に担当利用者、係分担役割を持ってもらうことで、やりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加できるよう、告知するとともに、職員の力量、希望を聞いて促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他職種への応援日を設け、数人の職員が交流することで、ホーム以外でのケアについて知り、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の事前情報の把握と、入居後の様子観察を行う。気持ちに寄り添うことを心掛け、会話を多く持つことで、言葉の中にある思いや、希望、不安を知ることが出来るよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心安く、話しやすい雰囲気作りを心掛け、家族の思いを知ることが出来るよう、関係作りに努めている。家族の話された言葉を記録に残し、情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至るまでに、本人、家族との話し合いの中から、以前の生活の様子を知り、それまでの生活の継続が出来るよう支援する。その後会議にて検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、利用者と情報共有を行う。相談、話し合いながら、ともに生活を行っていきけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の情報を定期的に知らせている。ケアについては事前にご家族に相談して行うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪問しやすい環境を作れるよう努めている。電話での交流も行っている。	通常であれば近所の方や友人の来訪があるが、現在は新型コロナウイルスの状況下でもあり来訪はお断りしている。収束後にはまた積極的に再開する予定である。職員の家族に美容師の方がおり、状況に合わせて来訪し利用者とは話をしながら髪の毛を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに認め合ったり、助け合ったり利用者同士の関係作りに留意している。孤立することのないよう、職員が間に入り、安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了したご家族との交流も絶やさないように関係作りに努めている。住み替えが必要になった場合は情報詳細を伝達に留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安の生活の様式や会話から、また必要に応じて家族も交え、利用者の希望、思いをくみ取り、職員間で情報を共有し、サービスにつなげている。	一日の始まりはまず元気な挨拶から、そして時間があったら顔を見てお話をし、また、1日1回は全利用者とお話をすることなどを心掛け、意向に沿えるように取り組んでいる。何をやりたいのか二者択一でやりたいことを選択していただき、清掃時には、モップ掛け、はたき等の提案を行い、日々の生活の中で思いを受け止めるようにしている。利用者一人ひとりの日々の状況は職員ノートに纏め、情報を共有しつつ利用者の希望に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書式を使い生活歴の把握を行い、家族からも様々な情報を得られるよう関係作りに留意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、利用者の言葉、表情から思いを捉え、記録に残し、希望すること、こうありがたい願いを、職員が共有し、満足できる生活につなげられるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族の希望、意見から、担当者、ケアマネを中心作成し、職員会議で意見を求め反映している。	職員は1~2名の利用者を担当し、体調管理も含め本人の希望も聞き、日々の状況を纏め職員ミーティングの席上全職員の意見も参考にモニタリングを行い、家族の希望も来訪時に聞き、ケアマネジャー中心にプランの作成を行っている。短期目標3ヶ月で、状態が安定している時には12ヶ月で見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は昼夜に分け、日々の様子・ケアプランの実施状況について記入し、情報共有、サービスの実践につなげている。ニーズの把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調の変化に伴い、家族の意向を聞きながら、対策やサービスのへんこうも柔軟に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響で地域の行事参加は見合わせているが、区長、民生委員の方に参加いただき会議を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本的には家族対応としているが、状況により状態説明など行なっている。協力医院は月一回の往診があり、緊急時は電話にて指示を得ることが出来、連携が取れている。訪問歯科も希望によって対応している。	入居時に希望する医療機関について聞き、現在は入居前からのかかりつけ医利用の方が若干名おり家族の受診対応となっている。他の多くの利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。医師と連携を取りながら必要に応じ訪問看護の利用も行っている。歯科は必要に応じ協力歯科の往診で対応し、歯科衛生士の来訪も月2回あり、口の健康にも配慮をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師に相談し、医師につなげてもらったり、体調によっては訪問看護師の受け入れも行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでのこれまでの生活の情報を提供している。また、退院に向けての病院からの情報を得て、状態把握し安心したホームでの暮らしになるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族が何を希望しているのか、主治医、訪問看護師を交え話し合い、ホームとして何が出来るかを方針を決め、支援できるように努めている。	重度化や終末期の取り組みについては利用契約時に説明している。終末期に到った時には家族の意向を確認の上ホームとして何が出来るのかを話し合い医師の指示の下、医療行為を必要としない状態で出来る限りの支援に取り組んでいる。開設以来2名の看取り支援を行い家族より感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に職員は参加したり、繰り返し訓練を行っていくことで、身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回、火災、地震を想定した訓練を実施している。年一回の地域の方の参加は、本年度は感染症対策の為中止したが、後日、会議にて報告は行った。	今年度は新型コロナウイルスの影響でホーム内部のみで4月、11月、2月の年3回、火災想定避難訓練を行い利用者全員参加で実施した。合わせてヘルメット等の備品の確認を行い防災への意識の向上に繋げている。また、携帯電話のLINEを用いた緊急連絡網の訓練も行い非常時に備えている。新型コロナ収束後には例年通り消防署参加の下、運営推進会議に合わせ防災訓練を行う予定である。備蓄は「水」「レトルト食品」「介護用品」等を1週間分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は常に意識し、言葉かけ等日々の関わりを振り返り、尊厳を大切にしよう心掛けている。利用者の表情から些細なことでも気付くことが出来るよう心掛けている。	言葉遣いには特に気配りをし、丁寧な言葉かけと家庭的な雰囲気作りに心掛け、楽しい1日が過ごせるよう取り組んでいる。入室の際には利用者へ「失礼します」「ありがとうございます」の声掛けを忘れないようにしている。また、声かけは苗字に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、利用者の思いや希望を引き出せるよう努めている。援助前の説明と意志の決定を伺い確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のメリハリを考え、基本的な流れはあるが、その時々々の希望に柔軟に対応している。やりたい思いを気付けるよう留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗顔時に身だしなみについて個々の力に合わせて支援している。外出時、入浴時服装など決められるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べやすい形状に配慮し、全員が同じ献立を楽しんで食べられるよう留意している。用意から片付けのうちに、利用者主導の場面があるよう心掛けている。	自力で摂取できるかたが三分の二、一部介助の方と全介助の方が若干名ずつという状況である。献立は職員が冷蔵庫の中の食材を見て調理している。基本的に昼は「肉」中心で、夜は「魚」を中心に、近い日の献立と重ならないよう意識をして提供している。現在は新型コロナウイルスの影響で職員は共に食事を取っていないが、食事介助をしながら話題を提供し楽しい時間を過ごしている。利用者のお手伝いは力量に合わせ、下準備から、味付け、片付けまで積極的に参加をいただいている。また、毎年の恒例行事として「干し柿づくり」「野沢菜の漬物」「大根漬け」等も全員で楽しく行っている。更に、正月、敬老会、お彼岸等には季節の料理も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握に努めている。水分が苦手な人には、好みのものを用意し、少量ずつ何回かに分けて飲んでもらうようにするなど、個々にあった摂取方法を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを支援している。歯科の助言なども取り入れて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、状態を知った上で話し合い、個々にあった声掛け促しを行っている。体調の変化でオムツ交換になっていた人も、体調の回復によりトイレ誘導を取り入れている。	排泄については自立されている方が半数弱、一部介助の方、全介助の方がそれぞれ数名ずつという状況である。利用者一人ひとりの状況は職員が把握しているので様子に合わせ声掛けを行いトイレに誘導している。また、一人ひとりの状況は排泄チェック表に記入し共有している。全介助の利用者については5時、9時、14時、20時、夜中1時におむつ交換を行い、その他の方についても申し送り状況の共有に努め、トイレ誘導に繋がるよう取り組んでいる。合わせて排便促進を図るべく「乳酸菌飲料」「スポーツドリンク」「お茶」等の水分摂取に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、食事内容のバランス、毎日の体操で予防に取り組んでいる。必要に応じ薬の処方主治医に相談して、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、おおよその順番を決めているが、本人の希望により変更できる体制である。入浴時間は体調を見ながら、本人の希望に沿っている。	全利用者が何らかの介助が必要な状況である。基本的には週2回の入浴を行い、希望があれば3回以上入浴することもある。現在入浴拒否の方もなく、全利用者が入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は決めず、個々の希望の時間に寝ている。午睡も同様だが、体調を見て声掛けさせて頂いている。室内温度、湿度の調節をして、快眠できるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表をつくり、薬の理解、把握に努めている。状態に合わせて、主治医と相談して、変更のある場合、記録に残し、周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割を持っていただき、域外につながるよう支援している。本人の希望、生活歴、家族の情報等から楽しみや満足感が得られるよう、プランを立てて実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染症対策の為、密になる場所は避けているが、天気の良い日は、ホームの外に出たり、ドライブに出かけたり、本人の希望に沿って行うようにしている。	外出時、自力歩行の方と車いす使用の方がそれぞれ半数弱、手引き歩行の方が若干名となっている。新型コロナウイルスの影響で外出が難しい状況であるが天気の良い日には近くの「地藏堂」まで散歩に出掛けたり、ホームの畑の「植え付け」や「収穫」を楽しみ飼っている犬と共に外気浴を楽しんでいる。また、少人数に分かれドライブを兼ね「お花見」に出かけたり、法人の別施設まで「ごみ捨て」の外出をするなど、外の空気に触れている。新型コロナウイルス収束後には例年通りの外出レクリエーションを行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は感染症対策の為、希望があったら、職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は家族の希望があり行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家という事業所の特徴を生かし、落ち着いた雰囲気作りに心掛けている。常に清潔であるように努め、季節の花などの写真を家族が飾って下さる等、生活感を感じ、居心地のいい空間を作るよう努力している。	築200年の古民家改修の当ホームは重厚感があり、落ち着いた雰囲気の中に温かさが感じられる。掃除が行き届き清潔感が漂う共用部分は純和風の柔らかな照明が施され家庭的な雰囲気を醸し出している。そのような中、花や日々の活動を映した四季の写真に囲まれ職員と共に笑顔を浮かべながら歌を歌い体操で体を動かす利用者の姿を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	教養空間は一人になるスペースはないが、思い思いに過ごすことが出来、利用者同士で楽しめる場所は作られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたタンスや写真、飾り物など置かれ、家族が本人のことを思い作られ、居心地の良い工夫がされている。	整理整頓が行き届いた居室は古民家の持つ温かさと落ち着いた雰囲気が感じられる。家族と相談もし、使い慣れた家具やテレビ等が自宅から持ち込まれ、家族の写真等にも囲まれ、利用者は思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を考え、使いやすいように配置等考えてある。安全については、手すりや足元の灯りを付けるなど、個々の力に合わせた対応を、話し合い確認している。		